



学校教育目標 かしこく たくましく 心豊かな 児童の育成
目指す児童像 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く 鈴谷の子

令和5年6月30日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和5年度 第4号

鈴谷小Web ページアドレス

さいたま市立鈴谷小学校 ☎852-5675

<https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/>



子ども達の「読解力」の向上に向けて

校長 中田 清人

一般的には、あまり知られていないことかもしれませんが、学校では、テーマを決めて学力向上や指導方法改善に向けた「学校課題研究」を行っています。本校では、「自ら考え、伝え合い、学びを高め合う児童の育成」の主題を掲げ、国語科、算数科を窓口子ども達の「読解力向上」に取り組んでいます。

「読解力」と言うと、私などの古い世代では「文章読解」というイメージが湧いてしまいます。それも間違いではありませんが、現代における「読解力」には、もっと多面性があります。そして「読解力」が注目されたことには理由があります。

OECD（経済協力開発機構）は、各国の教育を比較する教育インディケータ事業（INES）の一環として、PIISA（Programme for International Student Assessment:ピザ）と呼ばれる国際的な学習到達度に関する調査を実施しています。このPIISA調査の目的は、義務教育終了段階の15歳の生徒が、それまでに身に付けてきた知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることにあります。

2018年に行った調査は、中心分野が「読解」でした。そして、このときの結果では、「読解リテラシー」の到達度が、2015年調査と比較すると日本が有意に低下していることが分かったのです（全参加79カ国・地域中8位から15位へ低下）。また、「読解リテラシー」の問題で、日本の生徒の正答率が比較的良かった問題には、テキストから情報を探し出す問題や、テキストの質と信ぴょう性を評価する問題などがありました。さらに、「読解リテラシー」の自由記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明することに、引き続き課題があることが分かりました。

こうした背景から、学校では「読解力向上」や「伝え合い」に向けた取組が進みました。なにしろ、「実生活の様々な場面で直面する課題に活用」する力に課題があるわけですから、まさに現代社会を「生きる力」に直結する問題と言えます。本校でもまた、こうした状況を現代的な課題ととらえ、研究の対象として位置付け、子ども達の読解力向上に向けて取り組んできたというわけです。

研究に取り組んできて3年目となる今年度は、これまでの研究の成果を発表する年と位置付けており、今後は保護者や地域の皆様にも、例えば、学校公開の際などに共有させていただこうと計画を立てているところです。詳細は、後日ご案内いたしますが、これまでの「学校課題研究」の足跡を、なるべく分かりやすい形で鈴谷小学校HPに掲載しました（随時更新予定です。）ので、ご覧いただければと思います。

☞鈴谷小学校のHPには、こちらからアクセスしてください。

